



↑
対処
・
適切な行動への置き換え
↓



事例2 支援アイデア

テーマ1 お子さんの、今できることをどのように広げていくか？

- ・現時点でできている、入室できている、カードをみて座っていられるといったことも十分にすごい。着席を求めすぎず、フロア遊びをうまく活用する。
- ・得意なカード課題の使い方：興味があるので、うまくご褒美的に活用していけるとよい。教材を探すために離席をしてしまうということなので、教材置き場に、興味があるカード教材はおかないようにする。カード類は大人が隠し持つておくにし、注目や興味がそれたタイミングで、「カードやるよ」「こっちにおいで」と誘いかけのきっかけに活用する。
- ・教材置き場を探しに行くことが離席になるので、教材はそもそも子どもの近くに置いておくのもよい。つくえにこだわらず、フロアで、興味をもって手にとった教材をつかって課題やコミュニケーションを行う。

テーマ2 子育てにナーバスになっている保護者のメンタルのサポートしてできることはあるか？

- ・入室できていることなど、あたりまえに出来ていることの素晴らしさや大切さのところをしっかりと伝える。まだ低年齢でもあり、子育てにナーバスな保護者の状況をくみ取りつつ、今できていることをとにかくたくさん伝える。
- ・個別療育なので、できることや得意な課題のみをたくさん取り入れて、子どもには成功体験を重ねてもらおう。保護者にもその様子を見てもらう。苦手な課題やできないことは、取り入れない（失敗させない、失敗の様子を見せない）。
- ・声掛けとしては、見学されている時などに、子どもが離席したタイミングで「たっちゃんだめだよ」「座らないと」といった声掛けをしない。
- ・これをやったらあっちにカード探しに行こう！など、そもそも立つことが含まれたルールで、遊びや課題を設定する。また、そのことを分かりやすく子どもにも保護者にも伝える。
- ・立つことが、褒められるような活動を、こちらが環境として用意していく。失敗してもOKな構造化、をしていくのがよい。